

## 分科会①

## 脱炭素社会づくりとESD ～気候変動教育と、拠点の学び合い～

北海道地方ESD活動支援センター：気候変動教育勉強会の実施

近畿地方ESD活動支援センター

：脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの向上

<キーワード>

- ・シチズンシップ教育・主権者教育，権利の主体性
- ・マニフェスト・模擬投票～「高校も小さな社会」
- ・個人単位（ライフスタイル）での変革⇔社会単位での変革
- ・自治体（環境・教育部署）の役割
- ・価値観と行動の変革
- ・「問い」の重要性，「問い」の質を高める
- ・発達段階に応じた学習・活動範囲の設定
- ・（成功・失敗）体験の学びによる成長
- ・情熱
- ・他者をリスペクトし、誇りをもって語る（誇り、尊敬、語り）

①「ESD for 2030学び合いプロジェクト」で得られた新たな成果と今後の可能性

- ・気候変動教育を通して地域の現状を知り、社会への参画を考えるためのステップを作っていくことが必要
- ・発問と対話による学習者主体の学びを通して確かな知識となり、行動変容を促す。
- ・知識と共に「熱」を伝えることの重要性

②(①を踏まえ)今後のESD推進ネットワークに必要なもの、求めること

- ・地域のさまざまな年齢層がともに楽しみながら学ぶ機会の充実。
- ・分かりやすく情報発信。マッチング支援。
- ・脱炭素社会の担い手に求められる資質・能力は多様である。(個人のライフスタイルの革新・マニフェスト・提案力)それぞれの育成に強みのある主体が、ネットワーク化することが大切
- ・地域地球温暖化防止センターなど今あるリソースとESD推進ネットワークの接合、適応センターを交えた地域の教材開発
- ・学校がネットワークにつながっていくこと、学校間・地域のネットワークで可能性が広がる
- ・温セン・適応センター・地域ESD拠点が関わり多様な立場がつながる地域のプラットフォームの形成を。地域間のつながりも！

# SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ

## 分科会ごとのまとめ

- 東北：ユネスコスクールのネットワークを活かした海をこえた連携。キリバスを切り口とし互いの身近な地球課題を考え、交流から生まれる互いの文化を尊重する意識。地域を活かし、地域越えた他者との学びあいから、グローバルな意識を持った人材育成につなげる。
- 中国：生徒と地域の多様な主体が結集し、高校の教室断熱化自ら手を加え、思いを持つ大人と関わることで生まれる地域への愛着と、学校から地域へ広がり共に変容していく持続可能な地域への意識と課題を捉える力。
- 九州：総合的な学習の時間見直し「SDGs＋キャリア教育」段階を踏んだプログラム構築とSDGs活用に向けた教科学習カリキュラム研修等から育む学びに向かう力と意識の変容。地域を活かし生き方を考える学びから持続可能社会に向けた創り手の育成をめざす。

# SDGsを活用した教育×地域のチャレンジ

## セッション4への論点整理

### ①「ESD for 2030学び合いプロジェクト」で得られた新たな成果と今後の可能性

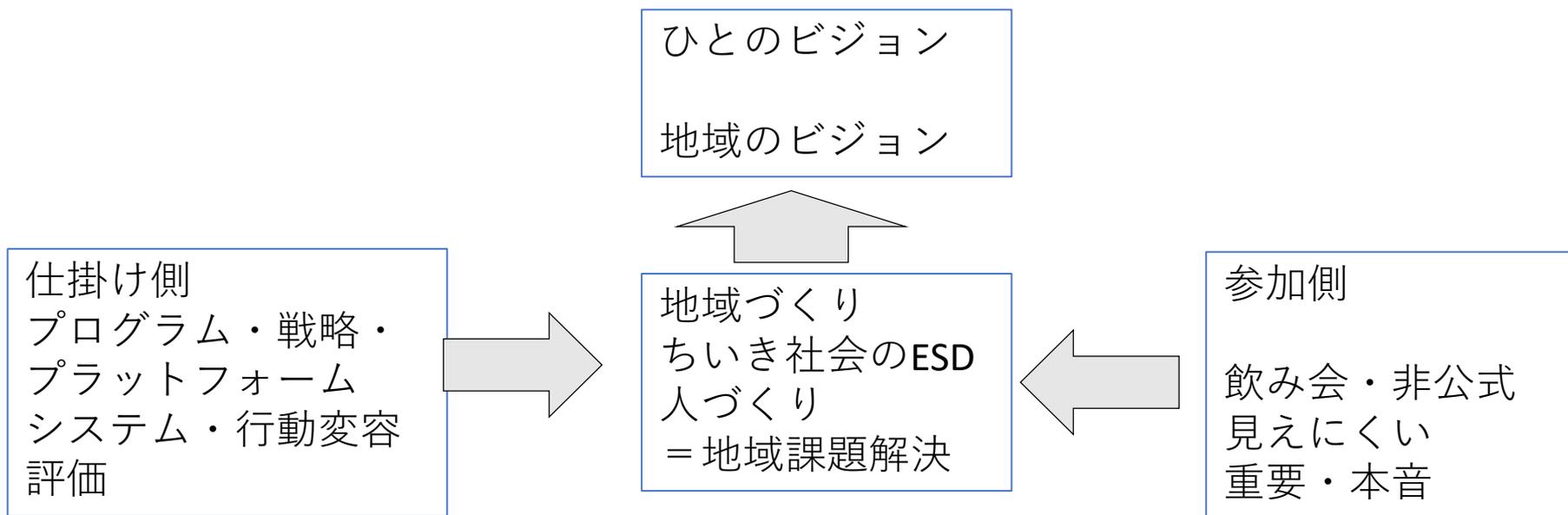
- ・生徒が多様な他者との連携、協働することで、持続可能な社会の創り手として必要な資質能力、新たな課題に気づく力が育まれた
- ・SDGsが自分たちのこととして捉える意識を持てるツールになり、教員は教科を活かした事例の提示やSDGsからキャリア教育を考えるなど可能性が広がった。それを育てるESDの重要性
- ・次世代自身と地域課題の距離感が近づき、アクションがより具体的になった
- ・持続可能な作業は何か模索する生徒の姿と接することで大人の変容につながった

### ②(①を踏まえ)今後のESD推進ネットワークに必要なもの、求めること

- ・課題解決や人材育成の具体性と、そのためのプロセスが重要
- ・時間をかけた地道なプロセスの必要性。信頼関係を気づき人的ネットワークを広げることで次のステップにつながる
- ・時代に則した新しい可能性（対面とオンラインの二刀流）で広がった可能性と、その中で大事にすべき軸持っておく必要性

# 地域に根ざした多様なSDGs人材育成

## 地域の人材を育てるESD



# 地域に根ざした多様なSDGs人材育成

- ① 「ESD for 2030学び合いプロジェクト」で得られた新たな成果と今後の可能性
- ・ 世代を超えた学び合いが、意識、行動の変容につながる。ユースの自由な発想が、刺激やつながりを促進する。
  - ・ 課題解決型の地域づくりがESD。それがローカルSDGsの実現につながる。
  - ・ CSVの実現を目指す企業・事業者が実践報告だけでなく課題や問題点を共有することで、学びになった。
  - ・ 振り返り、深掘りタイム、放課後タイムなどが重要。そこを丁寧にしていくことが必要。

# 地域に根ざした多様なSDGs人材育成

②(①を踏まえ)今後のESD推進ネットワークに必要なもの、求めること

- ・SDGsの担い手としてめざす人材像を明確にし、評価の視点と手法を持つこと。
- ・シチズンシップ力、キーコンピテンシーを伸ばしあっていくプロセスを作っていくこと。
- ・多様な人に参加してもらうために、敷居を下げる必要がある。アートを取り入れるなど。関わっている人が楽しく取り組んでいることを外に出していく事。
- ・起業家の視点を持った人、クリエイター、若者を育てていくこと。
- ・地域の良さ、問題・課題を見つける場、チャンスを作っていく。地域に即した学び合いを作っていく。